



273号
2022/5

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
Eメール:t_taizan@yahoo.co.jp



喜悦：開発が進んだ今でも、黄土高原の5月には、昔と変わらぬ麦秋がやって来て、収穫の喜びをもたらします。自然の恵みを深く感じる季節です。
(陕西省延川县白家村 2002年5月 撮影：周路)

'わんりい' 2022年5月号の目次は20ページにあります

昔、二人の美女がいました。一人は西施せいしと言いい、もう一人は王昭君おうしよくんという人で、二人ともとても美しい人でした。

ある日、西施は水辺で顔を洗せんっていて、川の中に小さな魚がいるのを見つけました。西施は魚に頬笑みかけて言いいました。「小さなお魚さん、おはよう！ ご機嫌如何！」

魚は、西施の美しい笑顔を見ると、急に自分は醜みにくいと感じて恥はずかしくなり、川底深くに潜ひそって身を隠かくしてしまいました。

王昭君は、遠い草原の国へ嫁よめいで行く途中、雁門関がんもんかんを通り過ぎたところで、輿こしの簾れんを掲あげて空を見上げ、祖国に別れを告つげていました。丁度その時、一羽の雁かりが空を飛とんでいて、王昭君の美しい顔を見ると、その美しさにはばたくのを忘れて、空から地上に落ちてしまいました。

➤・➤・➤・➤・➤・➤・

言葉の意味：水中の魚が泳ぐのを忘れて溺なれ、空を飛ぶ鳥が羽はばたくのを忘れて地上に落ちてしまう（誰もが我を忘れて見とれる）ほど美しい人を指す。

使用例：彼女は絶世の美女だ、正しく、沈魚落雁、閉月羞花へいげつしゅうかの人だ。

➤・➤・➤・➤・➤・➤・

このお話は有名ですね。日本では、久米の仙人が、川岸で洗濯せんたくをしていた若い女性のふくらはぎを見て、神通力を失ない、乗っていた雲から落ちてしまったという話もあります。場所（中国と日本）や時代（前3世紀頃と6世紀頃）は違ちがいますが、同じようなテーマで、感情がない筈はずの魚や鳥、感情を超越こ越した筈はずの仙人も美人には弱よいと言う訳です。

このお話の出典は戦国時代の書物「莊子そうじ」齊物論せいぶつろん

篇へんです。老莊思想の祖・莊子そうしが美人の美しさを形容したのかと驚おどきますが、もともとの意味は違ちがったようです。元は「毛嬙もうしやう・麗姫りきは、人の美とする所也。魚こ之を見て深く入り、鳥こ之を見て高く飛とぶ」というくだりです。

毛嬙えつおうこうせんは越王勾踐えつおうこうせんの愛姫あいしであり、麗姫しんけんこうは晋・獻公の夫人で、二人とも美人の誉ほれ高い人です。そんな美人でも近づくと、魚は捕とまえられるのを恐おそれて水底深く潜ひそり、鳥は射止とめられるのを恐おそれて遠く高く飛とんで行ってしまいうお話でした。ここでの意味は、鳥や魚にとって人間は怖おそいもの。人間の美醜みにく、貧富貴賤ひんぷくゑんは人間界のみでの相対的評価であり、人間以外にはその違ちがいは何の意味もないという趣旨しゆいだったようです。

いつ頃から今のような言葉が使つかわれるようになったのでしょうか。

普通に考えれば、美人も不美人も同じというよりは、美人は特別で、魚も鳥も我を忘れて見とれてしまうという方が面白いので、莊子の言葉を借用して、敢あえて逆を言いったのでしょうか。そして美人と言いえば毛嬙・麗姫よりは西施・王昭君の方が一般的、しかも西施は川で洗濯せんたくをしていて見出された、王昭君は雁の足に故郷への便べんりを結むすんだという伝説も踏ふまえて、このような言葉ができたと考えたと楽しいですね。

因みに、美人を讃ほめる言葉は他にも沢山ありますが、よくこの言葉と対たいにして使つかわれるもの、上記例文の「羞花閉月しゅうかへいげつ（美人の前では花も自らを恥はじてうつむき、月もその顔を雲うに隠かくす）」があります。この2句はどちらを先にしてもよく、また、それぞれの4文字も「沈魚落雁」も含めて、二文字ずつの入れ替えが自由です。



挿絵：満柏画伯

杜牧の七言絶句『清明』

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

この詩は昔から杜牧の名作として伝えられ、中国日本を問わず多くの愛好者から、それが当然のこととして受け入れられてきましたが、一方、専門家の間ではこれに異を唱える人が後を絶ちません。その主な理由は、唐・五代の詩約5万首を網羅した『全唐詩』、杜牧の詩178首を採録した『樊川文集』の何れにも入っていない、とういことです。また、現在中国で広く親しまれ、小学生でさえ丸暗記しているといわれる『唐詩三百首』、日本で最も人気のある『唐詩選』、この何れにも採録されていません。このほかにも色々な理由があるようですが、ここでは省略します。

[原詩]

qīng míng dù mù
清 明 杜 牧

qīng míng shí jié yǔ fēn fēn
清 明 時 節 雨 紛 紛

lù shàng xíng rén yù duàn hún
路 上 行 人 欲 斷 魂

jiè wèn jiǔ jiā hé chù yǒu
借 問 酒 家 何 處 有

mù tóng yáo zhǐ xìng huā cūn
牧 童 遙 指 杏 花 村

- *清明＝清明節。二十四節氣の一つ。4月5日ごろ。
- *紛紛＝雨、雪、枯葉などが乱れ落ちるさま。
- *断魂＝憂鬱で気が滅入る。
- *借問＝人にもものを訊ねる。
- *何处有＝どこにあるか。
- *牧童＝牛飼いの少年。
- *遥指＝遥か彼方を指さす。
- *杏花村＝杏子の花の咲いている村里。



(挿絵「美篇」から)

[訓読]

せいめい じ せつあめふんぶん
清明の時節雨紛紛

ろじょう こうじん こん た
路上の行人は魂を断たんと欲す

しゃもん しゅか いずく
借問す酒家は何処にか有る

ぼくどう きょうか むら
牧童遙かに指さす杏花の村

清明の時節とは、清明節前後の花盛りの季節をいいます。行楽のシーズンでもあります。一方、中国南方のモンスーン地帯では雨に出くわすことも多く、梅雨のような長雨になることもあります。日本でも同様な現象が見られ、菜種梅雨と呼ばれています。

道行く人々は時ならぬ雨に打たれ、魂も消え入らんばかりに憂鬱そうな様子です。その中の一人が、通りがかりの牧童に向かって「どこか居酒屋でもないかね」と訊ねます。牧童は遥か彼方の春雨に煙る村落を指さしながら「あそこだよ」と答えます。そこには杏子の花が咲き誇っていました。

後世、〈杏花村〉は酒どころの代名詞として使われるようになったということです。

[和訳]

清明節に雨しとど
道行く人は気もそぞろ
酒屋はどこじゃと訊ねたら
牧童の遙か指さす杏花村

時は春半ば、自然の変化と人の心が微妙に絡み合い、リアルでそこはかとなくユーモラスな生活感を醸し出しています。「牧歌的」という言葉がそのまま当てはまりそうな、のどかな農村風景ですね。近体詩としては韻も平仄も完璧です。この詩の作者が杜牧でないとするれば、一体だれが作ったのでしょうか。

王昌齡の「閨怨」

報告: 寺西俊英

今回は、王昌齡の『閨怨』についての解説をして頂きました。

王昌齡の作品は『唐詩選』に21首も載っており、知らない人はいないと思いますが、まず作者の紹介から始めます。王昌齡は698(?)年の生まれ、長安の人(一説に今の山西省・太原の人とも)。李白や王維とほぼ同世代の詩人です。性格は、礼儀作法にこだわらず奔放であったそうです。727年に折角進士に及第したにも関わらず、その性格が災いして再三左遷されます。そして755年に発生した安祿山の乱を避けて故郷に帰る際、亳州(現在の安徽省・亳州市)刺史(軍事を司る地方長官)の閻丘晁の恨みを買って殺されるという数奇な運命を辿ります。このことについては実は後日談があります。757年、宰相の張鎰が河南省に軍を進めた時、閻丘晁が軍律違反を犯し、死刑に処せられることになったのです。その時、閻は「自分には年老いた親があり他に養うものがないので命だけは助けて欲しい」と嘆願したところ、張鎰は、「それならば王昌齡の親は誰に養わせるつもりだったのか!」と問い詰めたので閻は返す言葉も無くうなだれた、との故事があるといえます。王昌齡の没年は756年とされていますが、生没年とも諸説あるそうです。

ところで王昌齡は七言絶句の〈聖主〉と言われる、閨怨詩や辺塞詩を得意とした詩人です。後に〈詩聖〉と言われた杜甫は、この頃まださほど有名な存在ではありませんでした。しかも七言絶句はどちらかと言えば苦手だったとい

うことです。今回の「閨怨」は題名からして当然閨怨詩の範疇に入ります。閨怨詩というジャンルは多くは男が女の身になって書かれたものですが、次の三つの類型に分かれます。

- ①一人で留守を守る妻の、夫への思慕と悲しみの情を詠ったもの
- ②仕える君主から遠ざけられた事への不満・悲しみ(君主の寵愛を失った宮女、また恋人に捨てられた女性の苦悩を含む)
- ③夫を戦場に駆り出された妻の孤独な心情を詠うもので、辺塞詩と表裏をなすもの

さて、それでは王昌齡の作品『閨怨』を見てみましょう。

guī yuàn
閨 怨

guī zhōng shǎo fù bù zhī chóu
閨 中 少 婦 不 知 愁
chūn rì níngzhuāngshàng cuì lóu
春 日 凝 妝 上 翠 楼
hū jiàn mò tóu yáng liǔ sè
忽 见 陌 头 杨 柳 色
huǐ jiào fū xù mì fēng hóu
悔 教 夫 婿 觅 封 侯

けいちゅう しょうふ
閨中の少婦愁いを知らず

しゅんじつしょう こ すいろう のぼ
春日粧を凝らして翠楼に上る

たちま はくとう ようりゅう
忽ち陌頭に楊柳の色を見て

ふしょ ほうこう もと く
夫婿をして封侯を覓めしむるを悔ゆ

一句目（起句）

若妻（少婦）が自分の部屋で退屈な日々をすごしています。新婚の夫は戦地に赴いたままで、本来なら、いつ帰って来るのか辛い思いで待っているものですが、思春期前に親の勧め通りに恋愛感情もなく結婚させられた幼な妻は、ただ日の過ぎ行くままにのほほんとして過ごしているのです。

二句目（承句）

ある春の日、何時ものように彼女は化粧して身づくろいした後、楼閣の階段を上り、外の景色を眺めるともなく眺めていると……。

翠楼の「翠」は女性の住むところを連想させます。「楼」とは二階建て以上の建物のことです。若い人妻が楼閣に上って遠くを眺めるといことは、一般には帰らぬ夫を待ち詫びることを暗示しますが、この主人公にはまだその気配はありません。

三句目（転句）

この時ふと、路傍（陌頭）に揺れる柳の若葉が目に入ります。この時彼女の心に、予期せぬ心情が生じます。

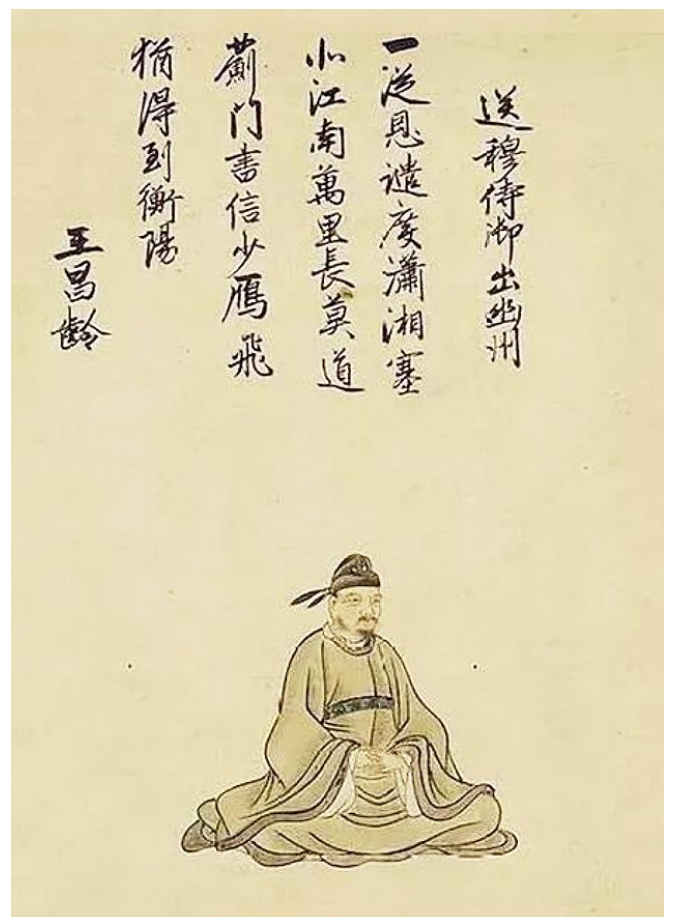
四句目（結句）

夫（夫婿）が手柄をたてて凱旋し、あわよくば一国一城の主となってくれるようにと、親戚などと一緒になって心を弾ませながら送り出したが、今となつては、そのことが悔やまれて仕方ない。

この詩に対して植田先生は、「この若妻は十二、三歳くらいで親の決めたまま輿入れし、夫が出征しても悲しむことなくのんびりと過ごしていたのです。当時としてはこのくらいの年齢で結婚してもおかしくは有りませんで

した。あまりに当たり前すぎて普通なら詩の題材にもならないところですが、王昌齡は結婚した後に主人公が春に目覚める、思春期を迎えるという角度から、ありふれた日常を見事に閨怨詩に仕立て上げていますね。本当の〈閨怨〉が始まるのはこれから後のことでしょうね」と言われ、皆さん納得。最初にあげた三つの類型から少し外れるようですが、この詩の構成から見ると、この後からが本来の閨怨詩の範疇に入っていくようです。

閨怨詩というジャンルがあり、男性の詩人が女性の気持ちを思いやりながら詩を作るのだと教えて頂いた時は驚きましたが、直ぐに紀貫之の「土佐日記」のことを思い出しました。作家の創作意欲は、どこでも同じような方向に向かうものなのですね。



中国三十六詩仙図のうち王昌齡像 狩野常信作
(ウィキペディアから)

河南省をめぐる友好提携都市(つづき)

文と写真=村上直樹

今回も、1月号からの続きで、河南省の地方行政区と日本の地方自治体との間の友好都市関係について、その経緯・契機を見ることにしたい。一般財団法人・自治体国際化協会(クレア)の情報によると、埼玉県内の4市が河南省の地方行政区と友好関係を結んでいるが、今回まず取り上げるのは、その4番目、埼玉県新座市と河南省済源市の関係である。

実は、河南省の済源市は、たしかに河南省行政区画一覧表等では、鄭州市、開封市、洛陽市といった河南省内の他の「市」と同列に見えるが、行政単位としてかなり特殊である。以前から気になっていたもので、この機会を借りて中国の情報サイト等を頼りに確認してみた。

中国の「市」は、省級、地級、県級の3分類のほか、どの行政単位が管轄しているかという点が異なる。まず、省級の市としては北京市、上海市、天津市、重慶市の4つがある。これらは、中央政府が直接管轄しているという点で、省あるいは自治区、特別行政区と同等であり、通常「直轄市」と呼ばれる(正確には「国轄市」ではないかと思うが、そうした言い方はなされない)。

次に、省を構成する「地級市」がある。河南省では鄭州市、開封市、洛陽市といった17の市である。地級市の「地」とは「地区」の略であり、地級市とは地区相当の市という意味である。これは、1949年の新中国建国当初、省は「地区」と「市」によって構成されており、前者の数がかなり多かったことによる。現在では省に属する「地区」はほぼなくなっている。なお、この地級市は、省が直接管轄しているという意味で「省轄市」でもある。

最後に通常はいずれかの地級市に属し、県に相当する意味で「県級市」と呼ばれる「市」がある。この「市」はもともと県であったものが、一定の基準を満たすことによって市に昇格したケースが多い。河南省で言えば、鄭州市の新鄭市、登封市、あるいは南陽市の鄧州市などが県級市である。一方、所轄関係から見ると、県級市は地級市が管轄している(正確には代管——代行して管轄している)。

以上が基本的な構図であるが、河南省において済源市だけは別である。済源市は県級市でありながら、

表 河南省各市の人口(2020年)と面積

	常住人口 (万人)	面積 (km ²)		常住人口 (万人)	面積 (km ²)
鄭州市	1,262	7,507	許昌市	438	4,977
開封市	483	6,247	漯河市	237	2,617
洛陽市	706	15,492	三門峽市	204	10,475
平頂山市	499	7,874	南陽市	972	26,591
安陽市	548	7,355	商丘市	782	10,658
鶴壁市	157	2,299	信陽市	624	18,819
新郷市	626	8,629	周口市	902	11,968
焦作市	352	4,072	駐馬店市	701	14,974
濮陽市	377	4,266	済源市	73	1,965

出所：人口は『河南統計年鑑』(2021年版)。面積は『河南省地図冊』(第2版)2016年、星球地図出版社。

地理的にどこかの地級市に属しているわけではない。また、地級市が管轄するのではなく、いわば地級市を飛び越して、河南省が直接管轄している。その意味で「省轄市」と同等である。

上の表からわかるように、済源市の人口と面積は、他の17の地級市(かつ「省轄市」と比べてかなり小規模で正に県級である。この済源市のような例は中国全体でも極めて稀で、中国大陸にある394の県級市のうち、省(自治区)が直轄しているのは20に過ぎない(2021年3月時点)。

では、なぜ、済源市は河南省の中で特別扱いなのか、(私がネットで調べた限り)諸説あつてはっきりとはわからないらしい。あるネット記事には、それまで焦作市(地級市の1つ)に属していた済源県が県級市・済源市に昇格した2005年当時、河南省の中原における地位向上を指して「十八羅漢開中原」(十八羅漢、中原を騒がす)という言い方があつたが、実際には河南省には17の省轄市しかなかったため、済源市を県級市ではあるが、省の直轄として辻褃を合わせたという説が紹介されていたが、真偽のほどはどうも怪しい。

さて、両市の提携のきっかけであるが、クレアの「提携情報」によると2000年9月に済源市の市長を団長とする行政担当者が新座市を訪問して以来、行政レベル、市民レベルの相互訪問が続き、それが、2002年5月16日の正式な友好都市関係に繋がったとのことである。3月号の「雑感」に表として掲げた

契機の種類では、①都市への訪問受け入れ、あるいは④市民交流、となるであろう。

ところで、済源市という「愚公移山」（愚公、山を移す）の四字熟語が生まれた地として知られる。これは、90歳になろうという北山の愚公という者が、自宅の門の前の2つの山を取り除こうと決心し、周りの者が笑うのを横目に、私が死んでも、子、孫、ひ孫と続けば、山はこれ以上高くなることはないのだから、いずれは平にできるはず、と山を削り始めた。すると、その様子を見た天の神は老人の熱意に感じて、山をほかに移してやった、という話にもとづく。どんな困難も、努力を続ければ克服できるということを教えている（出典は『烈士・湯問篇』）。済源市と新座市の友好関係締結は、最初のきっかけから2年を俟たずに実現したところを見ると、おそらくスムーズに事が進み、「愚公移山」の状況ではなかったのではないか。

次は長野県下諏訪町と河南省開封市との関係に移る。クレアの「提携情報」によると両市間の友好関係のきっかけは具体的である。中国の北宋時代後期に、首都・開封に建設された水駆動による大型天文時計装置「水運儀象台」が1997年、「諏訪湖・時の科学館・儀象堂」内に完全復元されたことがきっかけである。この施設は現在では「しもすわ今昔館・おいでや」の中の2つの施設の1つ「時計工房・儀象堂」として運営されている（他の1つは同町の埋蔵文化財を展示した「星ヶ塔ミュージアム・矢の根や」）。提携の契機としては、③歴史的なつながり、となる（なお、2015年5月19日付「人民網日本語版」には、その後中国でもその復元に成功したという記事が出ている）。

ところで、開封市人民政府外事弁公室のホームページには、下諏訪町との交流についてかなり細かく記されている。その中で、2009年10月に下諏訪町の青木悟町長（当時）他の代表団が開封市を訪問し、第27回菊花花会等の活動に参加したとある。この菊祭りについては、この「雑感」でも以前に紹介したが、毎年10月18日から約1か月間、開封市内の複数の会場を中心に開かれる盛大な祭典である。会場だけでなく、道路、学校、企業など町中が菊に包まれる。

1983年に「中国開封菊花花会」の名称で始まり、2013年には国家級の節会（行事）に格上げされ、名称も「中国開封菊花文化節」となって現在に至っている。



菊で造られた孫文の生家(2010年11月)

『百度百科』の記述によると、下諏訪町の代表が訪問した2009年、開封菊花花会は改革開放30年「影響中国節慶産業進程的30個節慶」（中国における祭典産業——祭典に関係したさまざまなビジネス——の進展に影響した30の祭典）の1つに選ばれたそうである。

私が、この菊祭りを実際はじめて見学したのは、下諏訪町の代表団が参加した翌年の2010年である。主会場の1つ「龍亭」には、中国各地から（海外からもあったかもしれない）出品された、菊の花で飾られたモニュメントがならんでいた。写真は広東省中山市から出品された、菊で造った孫中山（孫文）の生家である。「故居秋色」との題がつけられていた。なお、本物の生家は同市の翠亨村にある。

前面に大きく「天下為公、孫文」と書かれている。この言葉は孫文が好んで揮毫したことで知られる。出典は戦国時代末期に孔子によって著された『礼記』の中的一篇「礼運」にある「大道之行也、天下為公」（大いなる道が行われているときは天下は公である）（現代語訳は、溝口雄三他著『中国思想史』2007年、東京大学出版会、による）であり、いわゆる大同思想を示している。また、写真では少し見難いが、その後ろには孫文の像も立っている。なお、中山市の市の花も開封市と同じく、菊だそうである。

今回は最後に三重県津市と鄭州市惠済区の関係に触れる。両市の提携の契機は、⑦都道府県（三重県）と省級地方政府（河南省）の提携が縁、でわかりやすい。なお、「クレア」による「提携情報」の記述では提携先が「ボウ山区」となっていたので、ネットで調べてみると両市の友好関係が締結された1991年5月時点では惠済区は邙山区ほうざんと呼ばれていたことがわかった（惠済区となったのは2004年）。（続く）

中国の面白い神話物語・伝奇物語(14)－李娃伝(上)－

顧傑

今回は、少し長い物語なので、2、3回に分けてお話ししたいと思います。

~~~~~

李娃<sup>りわ</sup>は、長安の娼妓である。人徳があり、日ごろの行いも素晴らしいといわれている。

唐玄宗天宝年間(742～756年)、ある地方に有名な貴族がいた。この貴族は名望が高く、従僕も多く抱えていた。貴族が50歳になったその年、貴族の息子(以下、公子という)も20歳になった。公子は聡明で文才があり、同年代の若者の中では最も才能があると思われる。貴族は公子のことを可愛がっていて、人に会うと誰にでも自慢して言うのだった。

「見よ！ わが子は千里の駒に違いない！」

またこの年、公子は長安に秀才の試験(唐代の公務員試験の一種。合格しないと仕官できない。最終的には、皇帝が直々に面接する。一位は「状元」である)を受けに行くことになり、

旅立とうとしたとき、貴族は十分に豊富な財物を用意して、さらに華麗な服や名馬を準備してやった。

「わが子よ。」貴族が公子に言った。「お前は必ずや、良い成績を上げるに違いない。長安で2年過ごせるだけの費用を用意したから、思う存分勉強して夢を叶えるのだぞ。」

公子は、もう既に秀才の位は手に入れたかのように、意気揚々と出発した。そして一か月後、長安に着き、少し中心から離れたところに住み着いた。

ある日、公子は東市(長安の市場の一つ)で遊んだ後、帰途に友人と会おうと回り道をした。途中、門が小さくて、中の様子があまりよく見えない住宅の前

を通り過ぎた。その時、偶然、見えにくい門の中に立っている若い女性と目が合った。女性は下女を連れていて、その下女は王宮でも目立つほど美しくかったが、くだんの女性は、そんな下女的美貌など比べ物にならないほどに美しかった。

目と目が合ったとたんに、公子は一步も動けなくなり、手に持った荷物を取り落としても気が付かないほどだった。

その若い女性からも熱い視線が返って来たが、公子は声をかける勇気が出せず、その場から離れてしまった。

その日から、公子はもう魂が抜けたようで、勉強も食事も上の空になってしまった。長安に詳しい友人に訊くと、

「ああ、それは、長安の娼妓、李の屋敷じゃないだろうか。」と答えた。

「その女性、付き合ってくれるだろうか。」と公子が訊くと、その友達は、

「あれほどの美人だ。今までに王宮に出仕したり、有名な貴

族や官員に可愛がられたりしていたから、大金を持っている。百万の銭がなければ、恐らくその心を動かすことは出来ないだろう。」といった。

公子はそれを聞いて、

「百万の銭を使えば彼女と付き合えるのなら…」と独りごとを言いながら帰って行った。

後日、公子が一番いい服を選び、従僕十数人を連れて李の家に出かけて行った。扉を叩くと、きれいな下女が出てきた。

「こちらはどなたのお宅でしょうか？」と公子が訊いた。

下女は可愛くニコッと笑い、庭の奥へ走りながら



Kindle デジタルブック『李娃伝』



「先日荷物を落とした公子ですよ！」叫んだ。

すると、仙女のように涼やかな声が、花の香りと共に聞こえてきた。

「おもてなしをしておいて！ 私はお化粧を直さないといけないから」

公子はそれを聞いて、うれしくなってきた。家の中の広い部屋まで案内されると、老婦人に出迎えられた。李の母親だ。公子は跪いて挨拶をして、

「御宅では空いている部屋がまだあると伺ったので、お借りしたいと存じます。いかがでしょうか」

と伝えた。すると、老婦人が

「こんな貧乏くさい部屋なぞ、公子のようなご身分の方には釣り合いません！」

と言いながら、公子を応接室に案内した。

大事な客のために用意した部屋か、それは王宮にある部屋のようにだった。一見大したものはないようだが、よく

見ると、最高の素材で作られ、ところどころ金や小さな宝石が嵌められた家具が揃っている。公子がそんな椅子の一つに座ると、老婦人が公子に言った。

「私には娘がいます。まだ若いし、歌も舞もお眼鏡にかなわないかもしれませんが、それでもぜひ会ってやっていただきたいと存じます」

すると、奥から李娃が歩いてきた。李娃が現れると、家具に嵌め込まれた金も色を失い、李娃が手を伸ばすと、宝石の光もその肌色に負けてしまうほどだ。

公子は李娃を見て、ドキドキと心臓が跳ねているが、李娃の目を避けるようにお茶を飲み干した。すると、李娃がまたお茶を淹れて、公子に渡してくれる。今まで飲んだこともない美味しいお茶だった。

時間が流れ、もう夜になってしまった。

「公子よ。長安ではどちらにお住まいなのですか」と老婦人が訊いた。

実は、彼の家はここからそう遠くなかったが、公子

は嘘をついて言った。

「一番遠い城門から、西へさらに半日ほど歩いた先になります」

老婦人がそれを聞くと、

「何ということでしょう！ もう月が上がっています。公子は早くお帰りにならないといけません。さもないと禁令に触れてしまいます！」

と公子に帰るようにと促した。

公子は帰りたくないのので、懇願した。

「ご婦人、お助けください。御宅のお茶が美味すぎて気づいたらもう月が昇ってしまいました。長安には住むところもなく、親戚もいないのです。どうすればよいのでしょうか！」

李娃は軽く笑い、老婦人に向かって言った。

「お母さま。公子はこのような貧乏な部屋を借りようとなさったのですよ。一晩

くらいお泊り頂いても良いでしょう！」

すると、老婦人も仕方がないと、頷いた。

公子はそれを見て、従僕にきれいな絹を何匹も持たせてお礼をしようとしたら、李娃がそれを押しとどめて言った。

「公子。本日は我が家にいらして下さり本当に有難うございました。おいでくださっただけで、私たち親子にとっての福なのです。あなた様のご厚意は、また今度いただきます。今日の処はお納めください」

このようなやり取りが何回かあり、公子はようやくお礼の品を取り下げ、李娃の好意を受け、その夜は彼女の家に泊ることになった。

今の公子は、間違いなく幸せの絶頂にいた。

~~~~~

お金持ちの公子が、明らかに怪しい老婦人と李娃と出会い、果たしてどうなるのでしょうか。李娃の公子に対する感情は…。次回をおたのしみに！（続く）



越劇の『李娃伝』(新浪網から)

「秦皇島」をご存知ですか？……(14)

文と写真 吉光 清

秦皇島市を訪れる際には、経由地となる北京市で短い観光を楽しむのが定番だったが、うだるような暑さと湿度の高さに閉口し、秦皇島市に着いた途端に、暑さが和らぎ、山や海に囲まれて心理的にも開放感を感じて、避暑地として人気が高い理由を実感してきた。

海の近くなれば、気候はマイルドという先入観があったので、冬季も温暖なのは、と知人に尋ねたことがあったが、さにあらず、寒さで戴河も凍り、その上を人が歩けるようになると聞かされた。

それでも半信半疑だったが、昨年(2021年)の1月3日に知人が送ってきたメールのスマホ画像を見て納得せざるを得なかった。当日の最低気温はマイナス8度、日中に記録されたであろう最高気温はマイナス3度、そしてメールの時点ではマイナス5度ということが分かる。さらに、1週間予報が凄まじい。水曜日は最高気温がマイナス11度、最低気温がマイナス22度とあり、筆者の想像を超えた。これでは避暑地に成っても「避寒地」には到底、成り得ない。



ちなみに、秦皇島市の気候は“温帯大陸性季風気候”ということであり、この30年間の平均では、最も暑い7-8月でも最高気温は30度を超えず、冬場の最も寒い1月で、日中の最高気温は零度、最低気温はマイナス

11度だということである。(「百度」より)

晩秋の11月に入ると暖房が始まり、朝夕の時間帯で、低い位置にある太陽はスモッグと思われるモヤでボンヤリ霞むようになる。それとともに、空気の乾燥が進み、喉を傷め易くなるので、(コロナ以前だったが)マスク着用の若い女性が、結構、目についた。

■歩道の両側の並木と学院のフェンス

海岸を離れ、戴河大道を反対側(北戴河区)に渡った、22路の路線バスの「戴河大街」停留所附近から市中の案内を再開したい。

右上の写真は、バス停附近の歩道上で、バスがやっ



バス停附近の歩道で後ろを見た(2016年10月撮影)

て来た方角を振り返って見た景色である。ブロック敷きの歩道の左側に並木が続いている。歩道の右側には植え込みがあり、そこにも植樹がされており、歩道は並木に挟まれた“並木道”である。中央はセンターライン代わりの敷石で舗装されている。歩道の右奥には「輔路」が走り、そのまた向こうが片側二車線の車道である。驚くべき道路の構造・広さである。

左側の並木の横に見えるのは「河北对外经贸职业学院」のフェンスで、「承秦皇古韵铸品质港城」、「绿色秦皇島质量筑梦想」などの標語を掲げた看板が取り付けられていた。フェンスが続いた先にある学院の正門は見えていない。

路線バスの進行方向に歩みを進めると、学院の西南門があり、警備員の詰め所があったが、大概、無人であった。学院の正門前にはバス停があり、周辺にタクシーも待機しているので、それらを利用する場合は便利だが、学生たちが利用したい施設や店舗は何も無いので、学生たちが主に出入りするのには、歩いてスーパーや商店街に行ける、こちらの門のようだった。

新学期が始まり、新入生も入学してくる9月後半には、この門の外側に、軽食、お菓子や日用品を売りつけようとする物売りが大勢集まり、時ならぬ賑わいを見せたが、突然に門が閉鎖され、通行が出来なくなっていた。利用者の利便や細かいことに構わず、「上意下達」が通るところが、いかにも中国らしいと感じた。それでも、フェンスの隙間からお金を差し出して、物売りから食べ物を買っている学生もいた。

■学園のキャンパスは“惣構え”

中国の、学生数が多い学園キャンパス内には、日常生活に必要な、ありとあらゆる施設が備わっていることに驚く。食堂、理髪店、銀行のATMは言うに及ばず、銭湯、郵便局、スーパー、クリーニング店なども揃っている。その理由は、全寮制で入寮している学生だけでなく、殆どすべての教職員とその家族も職員宿舎に住み、キャンパス内が生活の場だからである。

筆者はテレビで見る華流時代劇の戦場シーンをつい思い浮かべてしまう。敵軍に攻められた城を守る將軍は城門を閉ざして、敵の軍勢を迎え撃つ。城壁の内に籠った領民たちも兵士と一体になって攻撃に耐えているうち、援軍到着が間に合い、勝利するのである。城壁は敵の侵入を阻止し、同時に、城内に住む人々の生命と生活の場を守り、それが又、兵士の戦闘を持続可能にし、長期の持久戦を可能にする訳である。人々が暮らす都市を“城市”と呼ぶ所以であろう。

日本の城も軍事・政治の拠点であったが、そこで暮らすのは領主とその家族だけであり、城壁や堀の内側には、町人どころか、武士の住む場所さえ無かった。したがって、敵に囲まれ、籠城しての戦となれば、食料を始め、生活に必要な物資が届かなくなり、備蓄が尽きれば落城か開城を余儀なくされたのである。

異民族とのせめぎ合いや未開拓の地域の占有を巡る争いが殆ど無く、城の防御に山や川などの地理・地形を利用することが伝統的だった日本では、長期の戦いに適した築城法の発達は遅れたと考えられる。

戦国時代の末期になって登場した、“惣（総）構え”と呼ばれる築城の形式は、城壁や堀によって防衛ラインを外に広げて包囲され難くすると同時に、防衛ラインの内側に、戦闘を維持するための補給体制を作れるようにしたものだと考えられる。これを大々的に採用したのは小田原城であり、戦わずして秀吉に降伏するまでは、強いと言われた上杉氏や武田氏からの攻撃を撃退して、“難攻不落”を誇ったと言われる。その後、大阪城や江戸城にも採用されたことが見られる。

キャンパス内の生活資源の充実を見て、侵略してきた異民族との抗争や大平原の真っ只中での長期戦を経験してきた中国の歴史を思うとともに、まるで“惣（総）構え”だなとも思ってしまうのである。

■交差点附近の探索とカラオケ店

“西遊記像”がある公園の前を通り過ぎると、囲い



カラオケ店の室内の様子(2016年10月撮影)

を巡らし大規模な地盤工事を行っているらしい場所があったが、中の様子は見えなかった。現在の百度地図に拠ると、コロナで訪中が不可能だった数年間で、「南戴河国際商务中心」が建ったようである。

戴河大街と寧海道が交わる周辺は、知人から自転車を借りて出掛け、スーパーで買い物をしたり、小路をウロウロしたので、馴染み深い一帯になった。

交差点近くの寧海道の両側には比較的小規模な店舗が多く、賑やかで下町の雰囲気だった。早朝には、獲れたての魚を道端で売っている姿もよく見かけた。

知人の若者に頼んで同行させてもらったカラオケ店も、この附近に在った。商業ビル内のエレベーターで上の階に昇って店内に入ったが、ビルの外にはカラオケ店について格段の表示は無かったようだ。若者たちは予めスマホで予約していたが、曜日や時間帯で料金が異なるということであった。

ガラスの扉を入れて右側の壁に大きなディスプレイ画面が取り付けられ、それと向かい合って長いソファと、横には一人掛けの椅子が数脚、置かれていた。天井や周囲の照明は派手だが、室内はむしろ暗かった。頼んだビールはソファの前にあるガラスのテーブル上に並べられている。(上の写真)

日本に関心を持っている彼らは、日本語の歌も選曲して達者に歌っていた。こちらに進められるまま、2曲歌ったが、そもそもカラオケで歌うことに気が進まなくなって久しいので、この時も気持ち良く歌い終わったとは言いかねる。

途中で、小用に立って部屋の外にあるトイレを使用した。案の定、フレンドリーな関係を前提にする構造だった。小用は横一列に立つ方式で、しゃがむ方は前と横に仕切りが無い方式だった。(続く)

前回(3月号)からの続きです。1992年に「小学館」から発行された、北京・商務印書館との共同編集による「中日辞典」にある、**日:中**という記号が付いた語を取り上げています。この記号は、漢字で対応する日本語がある場合、その意味・用法の違いを補充説明するというものです。中国語学習者にとって役に立ちそうなものをピックアップしています。

【回转 huízhuǎn】 向きを変える。ぐるっと回す。
tā huízhuǎnshēn jiù zǒu
 她回转身就走/彼女はくるっと背を向けて行ってしまった。

“回转”はぐるりと向きを変えるための回転であり、ぐるぐる回転するときには、“xuánzhuǎn” “zhuǎn” “dòng” “zhuàn” を用いる。chēlúnzhuǎndòng 车轮转动/車輪が回転する。dì qiúwéirào tài yáng xuánzhuǎn 地球围绕太阳旋转/地球が太陽の周りを回転する。また、頭や資金の回転は以下のような言い方をする。tā nǎo jīn zhuǎn de hěn kuài 他脑筋转得很快/彼は頭の回転がはやい。jīn zhōuzhuǎn hěn màn 资金周转很慢/資金の回転が緩慢である。資金繰りが苦しい。

“转”は「転」の簡体字です。“转”は多音字であり、“zhuǎn”は「向きを変える」、「zhuàn」は「ぐるぐる回る」時に用いられます。しかし、“xuánzhuǎn”や“zhuàn”は「ぐるぐる回る」意ですが、“zhuǎn”と第三声になるので注意が必要です。

【会合 huìhé】 合流する。いっしょになる。落ち合う。liǎng gè dēngshān xiǎofēnduì zài shān dǐ huì hé 两个登山小分队在山底会合/二つの登山パーティーは麓で合流する。huáng pǔ jiāng zài wú sòng kǒu yǔ 黄浦江在吴淞口与长江会合后流入大海/黄浦江は吳淞口で長江と合流して海にそそぐ。

日本語の「会合:かいごう」は“聚会 jùhuì” “集会 jíhuì”などを用いる。聚会的地点 jùhuìdedìdiǎn/会合場所。迅速聚会商量对策 xùnsùjùhuìshāngliang duìcè/早急に会合し対策を講ずる。

同じ発音の“汇合”も、“会合”と同じ意味で用いられます。

【机械 jīxiè】 1. 机械. 装置. 机械性损伤 jīxièxìng sǔnshāng/機械的損傷。 2. 機械的である。融通の

きかない。他的思考方式太机械了 tā de sīkǎo fāngshì tài jīxiè le/彼の考え方は機械的にすぎる。

“机械”は具体的な「機械:きかい」をさすことは少なく、抽象的なものをさすことが多い。具体的な機械は“jīqì”を用いる。这个机器很旧 zhège jīqì hěn jiù/この機械は古い。

“机”は「機」の簡体字で、「机」のことではありません。

【急用 jíyòng】 差し迫った入用。急用开支 jíyòng kāizhī/緊急支出。平时有储蓄, 有急用时就不用借钱了 píngshí yǒu chǔxù, yǒu jíyòng shí jiù búyòng jièqián le/ふだんからの蓄えがあれば、差し迫った入用のある時でも金を借りなくてすむ。

“急用”は金銭についていうことが多く、日本語の「急用:きゅうよう(急ぎの用事)」は“jíshì”を用いる。他有急事回家了 tā yǒu jíshì huíjiā le/彼は急用で帰宅した。

「急用があり今日の会食には参加できません」を、中国語で“我有急用不能参加今天的聚餐 wǒ yǒu jíyòng bù néng cānjiā jīntiān de jùcān”と言うと、中国人は、急な出費があつて会食に出られなくなったのか…と勘違いするのかもしれないね。

【阶段 jiēduàn】 段階。第一阶段的工程已经完成 dìyī jiēduàn de gōngchéng yǐjīng wánchéng/第1段階の工事はもう完成した。

日本語の「階段:かいだん」は“lóutī” “jiētī”という。进身的阶梯 jìnshēn de jiētī/出世的階段。

“阶”は「階」の簡体字です。2つの漢字のできる語の中には、“jiēduàn”と「jiēduàn:だんかい」のように、中国語と日本語で、漢字の前後が入れ替わっているものがあります。例えば、“héping”と「héping:へいわ」、「jièshào”と「jièshào:しょうかい」などです。このような語はいくつかあると思いますので、集めてみようと思っています。

【解除 jiěchú】 解除する。取り除く。解除警报 jiěchú jǐngbào/警報を解除する。解除职务 jiěchú zhíwù/職務を解く。解除武装 jiěchú wǔzhuāng/武装

を解除する。

“解除”は日本語の「解除：かいじょ」よりも使用範囲が広く、条約や武装などを解除する以外に、苦しみや災難を取り除く時にも用いる。解除灾难 jiěchú zāinàn/災禍を取り除く。解除痛苦 jiěchú tòngkǔ 苦痛を取り除く。

日中同形語には、その使用範囲の広さに違いがあるものがあり、これを正しく使うことはとても難しいです。少しずつ覚えていくしかないですね。

【**经理 jīnglǐ**】 1. 経営・管理する。经理一家小铺子 jīnglǐ yījiā xiǎo pùzi/小さな店を経営する。 2. 支配人。経営者。社長。总经理 zǒng jīnglǐ/総支配人。

会社などの「経理課：けいりか」は“会计科 kuàijìkē”という。

「経理」が「経営・管理」のことなら、当然、経営・経営者のことですね。どうして、「会計・給与に関する事務」の意になったのでしょうか。それから、“会”は多音字です。“会计”のときは“kuàijì”と発音します。

【**就职 jiùzhí**】 就任する。普通は比較的高い職位につくことをいう。就职演说 jiùzhí yǎnshuō/就任のあいさつ。就任演説。

日本語の「就職：しゅうしょく」は“就业 jiùyè”という。また、中華人民共和国成立後は、“参加工作 cānjiā gōngzuò”も就職する意味でよく使われる。

“职 zhí”は「職」の簡体字、“业 yè”は「業」の簡体字です。

【**看护 kānhù**】 1. 看護する。介抱する。世話をする。 2. 〈旧〉看護人。

日本語の「看護：かngo」は、けが人や病人の手当て・世話をする意だが、“看护”はそのほかに、子供や家畜などの世話をする時にも用いられる。我不在的时候，她帮助我看护孩子 wǒ búzài de shíhou, tā bāngzhù wǒ kānhù háizi/私がいな時、彼女が子供の世話をしてくれる。

“看”は多音字で「番をする、介抱する」の時は第一声となります。“护”は「護」の簡体字です。

【**看病 kànbìng**】 1. 診察する。治療する。大夫给病人看病 dàifu gěi bìngrén kànbìng/医者が患者を診察する。哪位大夫给你看的病？nǎ wèi dàifu gěi nǐkàn de bìng?/あなたが診てもらったのはどの先生ですか。 2. 診察をうける。我下午到医院看病去 wǒ

xiàwǔ dào yīyuàn kànbìng qù/私は午後から病院へ診察を受けに行く。你是哪天看的病？nǐ shì nǎtiān kàn de bìng?/あなたはいつ診察を受けたのですか。

日本語の「看病：かんばん」は病人の世話をすることだが、中国語では以下のような言い方をする。看护病人 kānhù bìngrén/病人を看病する。护理婆婆 hùlǐ pópó/しゅうとめの看病をする。

「医者が診察する」「病人が診察を受ける」のどちらも“看病”を使っています。このように同じ動詞を使って、異なる動作主に対応する例は他にもあります。“借钱 jièqián”は、「お金を借りる」と「お金を貸す」のどちらにもなります。このような場合、“给 gěi”などの介詞を用いて識別しています。

【**老化 lǎohuà**】 (ゴムやプラスチックなどが) 老化(する)。

体が「老化：ろうか」する場合は、通常“老化”は用いず、以下のような言い方をする。身体开始衰老 shēntǐ kāishǐ shuāilǎo/体の老化が始まる。防止大脑退化 fángzhǐ dànnǎo tuìhuà/頭脳の老化を防ぐ。

中国語の“老化”は、日本語の「経年劣化」のイメージに近いようです。

今回はここまでにしておきます。

ネット上で「日中同形語」に関する研究発表をたくさん見ることができます。今回は、許雪華さんという方の「日中同形語の量的分析」という発表の内容を、ちょっと紹介したいと思います。

許さんは、日本の『新明解国語辞典(第五版)』と中国の《现代汉语词典(第五版)》から、12,681語の日中同形語を抽出しました。それらを、二字音読み語・二字訓読み語・三字語・四字語・五字以上の語に分類。二字音読み語が全体の約92%(11,651語)を占めています。「父親：ちちおや」のような二字訓読み語は全体の約2%(267語)です。二字訓読み語には、「地主：じぬし」のような重箱読みの語・「片面：かためん」のような湯桶読みの語も含まれています。さらに、日中同形語を、同形同義語・同形類義語・同形異義語に分類。最も多い二字音読み語についていうと、同形同義語が約70%(7,924語)を占め、中国語を学ぶ日本人にとっては都合が良い。しかし、同形類義語と同形異義語を合わせると約30%(3,727語)もあり、これらは注意が必要です。

『シドモア桜』 <ポトマック河畔の桜>

和田 宏

2022年3月30日、NHK総合TVの番組「春よ、来い」の中で、アメリカ・ワシントンD.C.のポトマック河畔から満開の桜の中継がありました。この桜は、アメリカのナショナル・ジオグラフィック協会初の女性理事で、ニューヨーク・タイムズ通信員、紀行作家、写真家など幾つもの肩書を持つエライザ・ルアマ・シドモアが、友人のタフト大統領夫人ヘレンに働きかけて日本の桜を移植させたものです。

エライザは、兄のジョージが横浜駐在のアメリカ総領事だったことから、明治から昭和初めにかけて、何度も日本を訪れているうち、桜の美しさ、それを何の損得勘定もなく、桜の木の下で輪になって愛でる日本人の心の豊かさに感動し、特に墨田区向島の隅田川の水辺に映る景観をポトマック河畔の公園にも再現出来たら良いのになあと考えました。日本側の寄贈主は、当時の衆議院議員で東京市長だった尾崎行雄(罌堂)です。

尾崎は、日露戦争のあと、1905年、ポーツマス講和条約の締結で仲介の労を取ってくれたアメリカに何か感謝の意を表さなければならないと考えていたので、タフト大統領が桜を欲しがっていることを知って、“これで決まりだー！”と、大喜びしました。

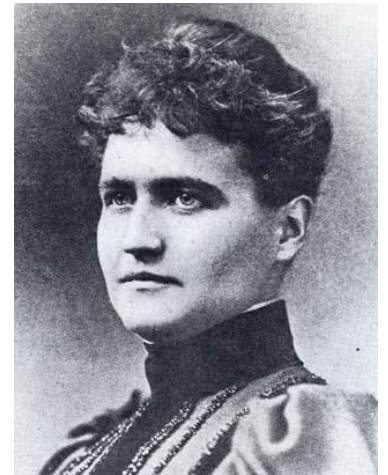
今から113年前の1909年日本からアメリカに桜の苗木3000本が送られましたが、病害虫がついていた為、全部焼却処分となりました。これで桜の寄贈計画は頓挫すると見られましたが、これにもめげず、3年後、再び今度は消毒した桜の苗木3000本がアメリカのワシントン市へ寄贈されました。

110年前の1912年3月27日、ホワイトハウス前庭のポトマック河畔で、日本から運ばれた桜の苗木3000本の植樹式が行われ、タフト大統領夫人ヘレン、珍田日本大使夫人いは、エライザの3人が鋤を取って植樹しました。

エライザの著『ヘーグ条約の命ずるままに』の中で、日本がロシア軍捕虜を人道的に待遇したと書いたことなどから、1908年に日本政府はエライ

ザに勲六等宝冠章を贈りました。

ジョージの母キヤサリンは、ジョージと一緒に横浜に住んでいましたが、1916年、93歳で亡くなった為、ジョージがお墓を横浜山手の外国人墓地に創設しました。その6年後、68歳で亡くなったジョージを、妹のエライザが同じ墓に納めました。



エライザ・ルアマ・シドモア
(1856～1928享年72)

アメリカが1924年、「排日移民制限法」を成立させて日本人の入国を禁止した為、日本びいきのエライザは怒って、母国アメリカからスイスのジュネーブへ移り、晩年をそこで過ごしました。シドモア邸には世界戦争の防止を念願する人々が日々訪れ、国際的論壇が繰り広げられました。

日本軍部は1928年6月4日、旧満洲の奉天市郊外で張作霖爆殺事件を起こしましたが、同年の11月3日にエライザはジュネーブで亡くなりました。享年72。翌日のニューヨーク・タイムズは、大々的な訃報を載せ、彼女が“葬儀は無用、火葬にし散骨して欲しい。”と、ジュネーブのアメリカ領事に手紙を残していたと伝えています。日本政府の要請と費用負担によりエライザの遺骨は、遙々横浜へ運ばれました。亡くなって1年後の1929年11月30日、冷たい氷雨の降る中、外国人墓地で納骨式が行なわれ、アメリカのネビル代理大使、幣原外相代理、横浜市長、新渡戸稲造・万里子(旧姓：メアリー・エルキントン)夫妻、横浜ユニオン教会の牧師ら凡そ100人が参列。ジュネーブでエライザと交流があり、国際連盟事務次長だった稲造が、英語で弔辞を述べました。ジョージとエライザは独身だったので無縁墓となってしまいましたが、母と兄、それにエライザの3人は、大きなベ

ッドのような形の墓石の中で仲良く眠ることになったのです。

<墓前祭>

さて、私は、2022年3月28日、満開の桜の下、外国人墓地にあるシドモア家の墓で行われた『墓前祭』に参加して来ました。エライザの墓の傍らには、1991年にポトマック河畔から“里帰り”した桜が植えられ、『シドモア桜』と名付けられています。墓前祭の主催者である「シドモア桜の会横浜」の梅本千晶会長をはじめ、第29代日本さくらの女王・前田真鈴さんや横浜市の国際局長、米国内務省日本語研修所のアレクシー・クラル所長、更に110年前に無償でワシントンへ桜を輸送した日本郵船や苗木を苔で包む技術で支えた横浜植木の後任ら合せて凡そ50人が顔を揃えました。横浜市は、ウクライナの港湾都市オデーセ市と姉妹関係にあることからウクライナの平和を願い、犠牲者へ黙祷を捧げました。そのあと、参加者が薄ピンク色の薔薇の花を墓石の上に順に載せて行きましたが、私は、花と一緒に、『桜咲き横浜山手の奥津城とポトマック岸でエリザを称え』と言う自作の短歌を認めた色紙もそっと捧げました。続いて皆で♪さくら、さくら、弥生の空は・・・を歌いました。奥津城の中でエライザさんも喜んでいました。この『墓前祭』の様子は、3月31日の神奈川新聞に掲載されました。

私がこの『墓前祭』に出掛けた理由は、エライザさんがジュネーブで遊び相手をしてあげた新渡戸稲造の孫・加藤武子さんと、取材を通じて知己を得ていたからです。ワシントンに桜の苗木が届いた1912年3月26日、タフト大統領の妻ヘレンは、その場でペンを取って、桜の贈り主の東京市長・尾崎行雄の妻テオドラに宛てて礼状を書き、“お嬢様のお誕生おめでとう！ 安産で何よりでした・・・”と書き添えています。“お嬢様”とは、1912年1月26日生れの雪香さんのことです。雪香さんと私は、「国際道徳再武装日本協会（MRA）」の会員でしたし、亡くなる迄14年間付き合いがありました。2008年（平成20年）12月25日に憲政記念館で行われた雪香さんを偲ぶ会には、雪香さんから英語の指導を受けた平成皇后（正田美智子）も臨席され、私は皇后と握手して会話を交わしま



横浜の外国人墓地にあるシドモア家の墓<2022・3・28>



アメリカ人招魂記念碑前で

した。

横浜の外国人墓地には、40ヶ国余、4400人余の墓があり、旧国鉄の初代技師長モレル、電話技師メーソン、フェリス女子学院創立者キダー、日本に漫画を伝えたワーグマンなど、近代日本の黎明期を牽引してくれた多くの恩人達が、終の棲家として寝ています。足を向けて寝られない尊い場所なのです。『墓前祭』のあと、近くのホテル4階にあるレストランで行われた昼食会では、シドモアさんが1891年に著した“Jinrikisha Days in Japan（日本・人力車旅情）』の英語オリジナル版も拝見。彼女は中国やフィリピン、ジャワ、インドなどにも出掛けて紀行文を書いています。レストランの窓からベイブリッジが春霞の空に遠く浮んでいるのが見えました。

日本を愛し、桜を愛し、日本とアメリカの間に桜の懸け橋を渡そうと努めた一人のアメリカ人女性に心を馳せた一日でした。

昨年(2021年)の暮れ、多摩の会の後藤さんと寺西さんと共に、明治大学生田キャンパスの片隅にある登戸研究所資料館を訪れました。かつてこの地で旧日本陸軍が秘密戦のための兵器・資材の研究・開発を行っていたことをご存知ですか？

スパイ活動や謀略などの水面下の戦いに関わる研究ゆえ、戦中戦後共にその存在は秘密にされていました。わずか一棟とは言え、その研究施設が保存され、戦争の暗部を語り継ぐ博物館として生まれ変わったことに意義を感じ、そのレポートをお届けします。

◆この地で何が行われていたのか

研究所の前身は1937年に開設された登戸実験所です。戦局から軍は秘密戦を強化する必要に迫られ、この研究所は機能・規模共にますます拡充して行きます。最盛期の1944年には、敷地11万坪、建物百余棟、所員総勢千名に達します。

四つの部門に分かれており、第1科は風船爆弾、第2科は毒物・薬物・生物兵器・スパイ用品、第3科は偽札・偽パスポート製造、第4科は兵器の量産部門を担いました。

登戸研究所は参謀本部の直轄で、秘密戦の重要性が増したことから、ますます存在感を強めて行きます。十か所あった陸軍の技術研究所の中で、最も多くの予算が配分されたそうです。



明治大学校舎としても使われていた資料館

ここで開発された兵器・資材には、人道上・国際法規上、問題のあるものが多いのです。それらを闇に葬ることなく、歴史的事実として次世代に伝えようとする姿勢に共感しました。

◆キャンパスに残る遺跡

生田キャンパス正門の裏手には、高さ約3m、幅約1mの大きな石碑があります。この研究所の実験動物らの霊を慰めるために建てられました。費用は当時の首相兼陸相、東条英機から授与された陸軍技術有功賞の副賞(当時の1万円・現在の約1千万円)が充てられたそうです。

西北門の坂を上ったところには弥心神社(現生田神社)があり、ここには研究中の事故で亡くなった人たちも合祀されていたそうです。その境内には「すぎし日はこの丘にたちめぐり逢う」と刻まれた句碑があります。

資料館となった建物は、スパイ用品の研究開発を行う第2科の研究施設でした。博物館に生まれ変わるに当たり、建物の造り付けの設備は可能な限り生かし、部屋割りや内装、照明も戦時中に近いものに復元されたそうです。展示品のみで無く、建物そのものが戦争の記憶なのです。

◆最終兵器・風船爆弾

数々の秘密兵器の中でもユニークさとスケールにおいて際立つのは風船爆弾です。第1科が開発した風船爆弾(ふ号兵器)は戦争末期の日本陸軍の最終兵器でした。日本の主要都市部が空爆に晒される中、軍



動物慰霊碑を覗き込む後藤さんと寺西さん

はアメリカ本土に一矢報いたいと言う思いを風船爆弾に託したのです。

その原理とは、気球に水素ガスを注入し、爆弾と砂袋を吊り下げ、偏西風に乗せて飛ばします。二昼夜半かけて、アメリカ上空にたどり着き、爆弾を投下する仕組みでした。

様々な素材が試行される中で、和紙をこんにゃく糊で貼り合わせた物が最適だということになり、全国の女学生らが動員されて、気球が製作されました。写真の模型は10分の1サイズです。

実際に飛ばされた気球は約9300発。そのうちアメリカ大陸には千発が到達したと言われます。実害を負わせることはほとんど無かったのですが、オレゴン州で一発の爆弾が民間人を巻き込みます。

アメリカ政府は風船爆弾に脅威を感じます。もしそこに、爆弾では無く化学兵器を搭載されたら被害は計り知れません。それが原爆の開発を急がせる一因にもなっていたと言われています。

◆もう一つの紙製の武器

日中戦争が泥沼化する中、日本軍は中国の経済を攪乱する偽札工作を考えます。この作戦に拍車をかけたのは、香港を占領した際、法幣（蒋介石政権が発行した法定紙幣）の原板・印刷機・資材を押収したことです。登戸研究所では、限りなく本物に近い偽札が作られたのです。一説には40億円もしくは60億円が作られ、25億円が実際に中国で使用されたとの証言があります。その運搬を担ったのは陸軍中野学校の出身者たちでした。

しかし中国は戦争開始と共に物資不足に陥り、物価は急上昇。法幣の発行高も激増します。その結果、偽札は期待通りの効果を生まなかったようです。

日本軍は風船爆弾と偽札と言う、紙の武器にすがりました。資源の無い日本ならではの発想ながら、優

秀な頭脳と高い技術が、そのようなことに使われたと思うと、戦争の虚しさを感じずにはられません。

◆次世代に語り継ぐ

ここで働いていた研究者たちは戦後、堅く口を閉ざしました。終戦の日に、全ての証拠を隠滅せよ、との命令が極秘に出ていたことにもそれは表れています。

1980年代、反核・平和運動の高まりの中、川崎市・法政第二高校と長野県・赤穂高校の生徒たちがこの研究所の調査に取り組みました。登戸研究所は戦争末期に長野県に疎開しています。両校の生徒たちにとっては自分たちの地域にあった研究所でもあり、文化祭で発表することが当初の目的でした。しかし彼らは元研究者たちへの取材を通して、歴史の事実を自分たちの手で掘り起こす魅力に引き込まれて行きます。

そんな彼らの熱意がかつての研究者たちの重い口を開かせます。ある元所員は「大人の誰にも話したくなかった。君たちが高校生だから話したのだ」と言ったそうです。

沈黙を貫いていた元所員たちの有志団体は、ついに登戸研究所の保存と資料館の設置を明治大学に要望します。検討委員会、開設準備室を経て、2010年に開館。正式名称を「明治大学平和教育登戸研究所資料館」と言います。

生田の丘にたたずむ小さな資料館を、一度訪れてみてください。



風船爆弾の模型(実物は直径10m)

名称: 明治大学平和教育登戸研究所資料館

<http://www.meiji.ac.jp/noborito/>

電話: 044-934-7993 (現在は事前予約制)

交通: 小田急線「生田」駅下車徒歩約15分。または小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車北口から小田急バス「明大正門前」行き約20分終点下車

開館時間: 10:00~16:00

休館日: 日~火曜日、8/10、8/12、年末年始、入試実施日
入館料: 無料

* 外来者用の駐車スペースはありません

中国・四川省四姑娘山よりのお便り

大川健三さんは中国四川省にお住まいで、現地の自然保護区特別顧問として長年ご活躍です。わんりいにも時折美しい高山植物や秀麗な雪山の写真を送ってくださり、現地のコロナ感染状況などをご報告くださるのは皆さまご存知の通りです。また、毎月わんりいを読んで感想をお寄せくださっています。4月号のご感想メールでも過分なお褒めのお言葉を頂きましたが、そこは、編集者たちへのご褒美としていただき、メールの後半部分をご紹介しますことができます。

➤・➤・➤・➤・➤・

四姑娘山自然保護区管理局特別顧問 大川 健三

成都周辺の新型コロナですが、春節明けの2月末からオミクロン株がポツポツ出始めて収束せず今では100人以上感染していて(帰国者関係は別に1000人以上)、3月初めには私が住むマンションの団地でも全員PCR検査を受けました。また4月初めには上海と成都を結ぶ高速鉄道の車掌が感染していた事が判って危機感が高まりました。今の所、成都では外出を自主的に減らす緩い規制ですが、近隣地域の四姑娘山や丹巴等は成都等との行き来を禁止しています。ただ食料等は普段通り供給されていて特別な値上がりも無いです(豚肉は昨年豚コレラのために1500円/kg位まで高騰した反動で今は400円/kg位に値下がりしています)。

日本では新型コロナに欧州の騒動が加わってより困難な状況が出て来ているようですが、無事に乗り越えられて益々ご活躍されますよう、ギャロンの地よりお祈り申し上げます。

÷÷÷÷÷÷÷÷

大川さんが現地の四姑娘山を案内して下さるテレビ番組が、時々NHKBSで放映されます。実は今回も、4月の放映をお知らせいただきましたが、5月号の発行前でしたので、ご案内できませんでした。次回は9月ごろ放映予定だそうですので、間に合うようにご案内できると考えています。その時には、是非お楽しみください。

◆訂正とお詫び

わんりい4月号表紙の撮影者名に間違いがありました。印刷版4月号表紙の撮影者は佐々木健之さんでした。お詫びして訂正いたします。

麻生区区制40周年記念

わんりい主催イベント

あさおサークル祭 6月5日(日)

麻生市民館視聴覚室

▲午前：10：30～12：00

講演「論語から学ぶ言葉の力」

講師：植田 渥雄 先生

桜美林大学名誉教授

▲午後：13：30～15：00

ボイストレーニング

講師：Emme[エメ] (歌手)

~~~~~

あさおサークル祭恒例のイベントです。

午前は、植田先生の「論語」のお話です。孔子の教え再評価の気運が高まっている昨今、改めて、「論語」のお話を伺って考えましょう。

午後は、若々しいEmme先生のご指導で、日常生活では使うことの少ない声や筋肉を動かして、身体と脳に刺激を与えましょう。

## ◇満柏画伯の漢訳俳句◇

目に青葉 山ほとゝぎす 初鯉

(山口素堂)

jiān yú wèi měi lǜ yīn xià  
鯉魚味美綠蔭下

mǎn mù qīng shān tí dù juān  
满目青山啼杜鵑

**171 話 効き目の速い育毛剤**

頭の禿げあがった人が薬局へ育毛剤を買いに来て、店員に訊いた。

客:「この育毛剤は効き目があるのだろうか?」

店員:「ありますとも!先日なんか、この薬をお求めのお客様が、瓶の蓋を歯で開けたら、直ぐに口ひげがはえてきましたよ!」

**第 172 話 解熱**

日本の三吉という子供が高熱を出した。両親は玄庵という医者に往診を頼んだ。」

玄庵:「この熱はすぐ下がりますよ」

と言って、薬を置いて行った。

両親は直ぐにその薬を飲ませた。しかし明け方になって、子供が全身冷たくなっているのを発見した。子供は既に死んでいた。

玄庵:「御覧なさい。私の薬を飲んだから、熱がすぐ下がり、冷たくなったでしょ!」

**第 173 話 訊かれれば答える**

母親が 6 歳の女の子を連れて精神科の医者の方へ診察を受けに来た。

医者は女の子に訊いた:「あなたは女の子なの、それとも男の子なの?よ〜く考えてそれからこたえてね」

女の子は直ぐに答えた:「私は男の子よ」

医者:「そうなんだ。じゃあ大きくなったら何をしたいの?」

その時、母親が口を挟んで、女の子に言った:「ねえ、最近よくおしゃべりするあの話をしたら」

女の子:「ママ、聴いていなかったの?先生はあの時のおしゃべりの問題を訊いていないわ。訊かれれば答えるけど」

**第 174 話 親に倣う**

村の医者が、彼の医術を息子に伝えたいと思っていた。ある時、親子一緒に患者を診察に行った。

病人は腹痛が激しくて苦しんでいた。

医者は、患者の家族に言った:「病人に冷たい果物を食べさせましたね」

家族は否定したが、医者が厳しく問いただすと、最後には食べさせたことを認めた。

後で息子がどうして果物のことが分かったのかと聞くと、父親は答えた:

「あの家には果物の皮が捨ててあった。果物を食べたに違いない。きっと病人にも食べさせたに違いない。医者は周りを良く観察しなければならないのだ」

何日か後で、医者の子が一人で病人を診察に行った。病人は、ベッドで七転八倒していた。

彼は、病人の家族に厳しく言った:「病人にロバの肉を食べさせましたね。大変危険なことです」

病人の家族:「何を根拠にそんなことを言うのですか!」

医者の子:「そりゃあ明らかですよ。お宅の門口にロバの鞍が置いてあります。これで、あなた達がロバを殺して食べたのは明らかですよ。病人にも食べさせましたね」

**第 175 話 成長するにつれて背が低くなる**

お兄ちゃんが、弟を連れて公園の若い柳の木の下へ来て、弟の背を測ってやり、その高さを樹の幹に記した。

次の年も同じ木の下へやって来て、また弟の背がどれだけ伸びたかを計って印を付けた。何と、弟は背が伸びていない!それどころか、去年より低くなっている!

「えっ!本当?」

弟は手足を伸ばし、つま先立ちしたけれど、やっと去年の印に届くだけなので、すっかりあわててしまった。

「どうしたら良いんだろう?」

お兄ちゃんは弟に言った:「早くお医者さんに行って、去年より小さくなってしまふのはどんな病気なのか診てもらって来いよ!」

## 【わんりいの催し】

皆様のご参加を歓迎します

### ♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体力を抜いて気持ちよく発声しよう！  
声は健康のバロメーター!!

\*動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：まちだ中央公民館
- 日時：5月24日(火) 10:00～11:30  
美術工芸室  
6月7日(火) 10:00～11:30  
視聴覚室
- 講師：Emme [エメ] (歌手)
- 会費：1,500円 (講師謝礼・会場費)
- 定員：15名 (原則として)
- 申込：☎042-735-7187 (鈴木)

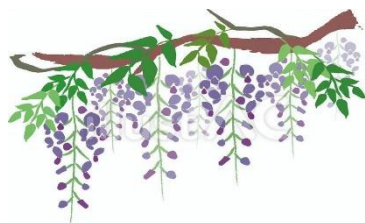
~~~~~

*** 中国語で読む 漢詩の会 ***

漢詩で磨く中国語の発音！中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

- 会場：まちだ中央公民館 視聴覚室
- 日時：5月22日(日)10:00～11:30
6月26日(日)10:00～11:30
- 講師：植田渥雄先生
桜美林大学名誉教授
- 会費：1,500円 (会場費・講師謝礼)
- 定員：20名 (原則として)
- 申込：☎090-1425-0472 (寺西) と
Email:ukiuki65jpp@yahoo.co.jp

(有為楠)



■5月・6月定例会 代表宅

- ▼ 5月12日(木) 13:45～
- ▼ 6月9日(木) 13:45～

■‘わんりい’発送 三輪センター

- ▼ 6月号:5月30日(月) 10:00～
- ▼ 7月号:未 定

☆☆ 編集後記 ☆☆

今年、4月20日は穀雨でした。冬の間には乾いた大地を潤し、植物の芽吹きを促す慈雨の季節です。

本誌5月号の表紙は、以前から‘わんりい’の活動にご協力くださっている、中国安徽省在住の版画家で写真家でもある周路さんにご提供頂いた黄土高原の写真です。

黄土高原と言えば、荒涼とした冬の写真をよく目にしますが、ここが今のような状況になったのは明代以降だそうで、それまでは緑豊かな森林だったのです。何千年もの間に、人間が食糧増産のために森林を侵蝕し続け、明代になると、万里の長城を築くのに必要な大量のレンガを焼くための薪を採取して、森林の息の根を止めてしまったのです。

そんな黄土高原でも、穀雨を経て、収穫の季節を迎えます。高原が輝く季節です。

~~~~~

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎します  
年会費：1800円、入会金なし  
郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい  
10月以降の入会は、当年度会費1000円。  
■問合せ：044-986-4195 (寺西)

### ‘わんりい’273号の主な目次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 寺子屋・四字成語 (52)『沈魚落雁』     | 2  |
| 「日译诗词」(22) 杜牧『清明』       | 3  |
| 「漢詩の会報告」(57) 王昌齡『閨怨』    | 4  |
| 「中原」雑感(21)河南省を回る友好提携都市  | 6  |
| 中国の面白い神話伝奇物語(14)『李娃』(上) | 8  |
| 「秦皇島」を御存知ですか (14)       | 10 |
| 「日中字典」からの意外な発見 (10)     | 12 |
| 「シドモア桜」                 | 14 |
| 「登戸研究所資料館」              | 16 |
| みんなの広場                  | 18 |
| 中国の笑い話-50               | 19 |
| ‘わんりい’の催し・お知らせ          | 20 |